

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570300634		
法人名	株式会社悠隆		
事業所名	グループホーム「ととろの杜」		
所在地	宮崎県延岡市土々呂町5丁目2565-1 (電話) 0982-23-8309		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年7月17日	評価確定日	平成20年8月30日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かで閑静な住宅地にあり、1階が有料老人ホーム、2階がグループホームになっている。2ユニットでそれぞれ独立しているが、見通せる同じフロアにあり食材のやり取りなども行っている。職員が意欲的に仕事に取り組み、管理者を先頭に資格取得などに向けた学習を熱心に行っている。新興住宅地で外部からの転入者が多く困難な面もあるが、地域に根ざしたホームを目指して働きかけを続けている。

## 【情報提供票より】(平成20年6月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年3月23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤7人, 非常勤8人, 常勤換算6.45人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	120 円	昼食 240 円
	夕食	240 円	おやつ 66 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年6月10日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	6	要介護2	3
要介護3	7	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 83歳	最低 71歳	最高 95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中病院、延岡保養園
---------	------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	異動は極力行わない方針をとり、離職する職員も少なくなっている。研修も意欲的に行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、改善すべき点やより良い暮らしを支えるためにはどうしたら良いか等が多く出され話し合われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの状況報告や課題などが討議され、地域との交流の橋渡し役となっている。多彩なメンバーによる会合でもあり、ホームで困っていることなどをよりオープンにして意見をうかがえば、更にサービス向上に生かせると思われる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付窓口を重要事項説明書に明示することはもとより、機会あるごとに意見や不満などを聞くようにしている。出されたことに関しては可能な限り速やかに対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方を招いての茶話会を行ったり、地元の幼稚園と行き来をしたりしている。より地域に根ざしたホームとなるために、現在行っている働きかけを地道に続けてもらいたい。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流をうたった独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼で唱和し確認するとともに、日ごろから具体的なケアに生かすことを話し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方々や地元幼稚園との交流を行っている。	○	外部からの転入者が多い地域で難しい面もあるが、現在の取り組みを継続・発展させて、より一層ホームからの情報発信をお願いしたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価に取り組み、改善点を話し合っている。また、評価をきっかけのひとつとして積極的に利用している。		

宮崎県延岡市 グループホーム「ととの杜」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、報告や意見交換を行っている。会議が地域との交流のきっかけになった。	○	報告などがしっかりとされている。加えて、直面している課題や困っていることを議題にしアイデアを頂くなど、会議を活用することで更にサービス向上につながると思われる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に直接出向き、制度や利用者に関する相談をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りの送付に加え、来訪時に詳しく報告をしている。また、必要に応じ電話での連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会あるごとに意見、苦情を聞くように心がけ、できる限り速やかに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限にしており、離職者も減りつつある。明るく、働きやすい職場環境づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から勉強したいという希望が強く、法人・ホームでの研修計画につなげている。資格取得も積極的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のホームと密に交流するとともに、県北グループホーム協議会に加入し研修を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急な利用の場合もあるが、必ず職員が事前に自宅を訪問している。家族にもホームの見学や雰囲気体験を体験していただくようお願いしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から学ぶことが多いと職員が感じており、ともに暮らす関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの暮らしから本人の希望や思いを把握するように努め、家族にもお聞きしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必ずといっていいほど家族も参加してのカンファレンスを行い、さまざまな意見を出し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとの見直しとともに、状態や状況の変化に応じて適宜見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な買い物外出、医師による往診などを行っている。家族の希望があれば宿泊もできるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は基本的に家族にお願いしているが、困難な場合はホームで対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアマニュアルを作成し協議している。職員にもその心構えがある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	本人や周囲に配慮した言葉掛けや対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、個々人のペースに合わせた支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事の下ごしらえ、台ふき、盛り付け、後片づけなどを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯を決めているが、それぞれの状態や希望により柔軟に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々人の生活歴や生活習慣を把握し、野菜作りや裁縫などの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回の車での買い物のほか、その時々に応じてホーム周辺の散歩に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	様子に気を配り言葉を掛けるなどして、日中は鍵をかけないようにしている。		

宮崎県延岡市 グループホーム「ととの杜」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し定期的に訓練を行っている。	○	非常時の通報訓練や消防、近隣に呼びかけての総合訓練を行ってほしい。避難経路が階段であるため課題が見つかると思われる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量、体重などをこまめにチェックし、バランスの取れた献立にしている。職員に管理栄養士、栄養士の有資格者がおり、専門的見地からの工夫がなされている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファを置いたり利用者の作品を飾るなど、ゆっくりくつろげるよう工夫されている。温度や明るさ、テレビの音量も適度であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に本人が使い慣れた品々を持ってきていただけるようお願いしている。	○	居室が若干殺風景な印象をうける。家族に居室の雰囲気の重要性を説明するなど働きかけ、更に居心地よく過ごせるようお願いしたい。

※  は、重点項目。